



図 21.7 線維硬化性毛包上皮腫 (desmoplastic trichoepithelioma)
5 mm 大、辺縁が隆起し小環状結節が縁取りする。

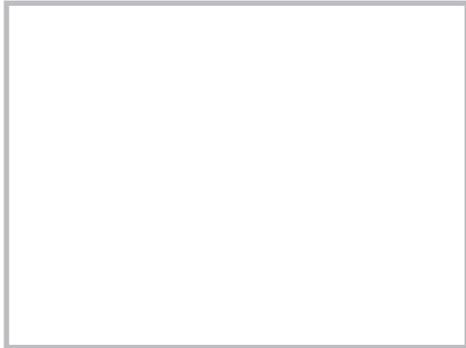


図 21.8 毛母腫 (pilomatricoma)
直径 1 ~ 2 cm の軽度圧痛を伴う皮下結節。水疱形成や淡紅斑を伴うこともある。

過形成, 腺腫, 上皮腫

MEMO

〔同義語：多発性丘疹状毛包上皮腫 (trichoepithelioma papulosum multiplex)〕

女子にやや多い。常染色体優性遺伝形式をとり家族内発生がある。本症の原因として cylindromatosis gene (CYLD 遺伝子) の異常が同定されている。思春期に初発し、常色の小丘疹が鼻を中心に出現、多発する (図 21.6)。結節性硬化症の顔面血管線維腫 (20 章 p.395 参照) に類似するが、白斑や粒起革様皮膚など他症状の有無で鑑別可能である。必要に応じて単純切除やレーザー療法を行うが再発しやすい。

③線維硬化性毛包上皮腫 (desmoplastic trichoepithelioma)

比較的若年成人女性の頬部、額部、鼻部などの顔面に好発し、正常皮膚色から淡黄色で数 mm ~ 1 cm までの環状結節ないしは局面を呈する。辺縁が隆起し、中央が陥凹するのが特徴である (図 21.7)。病理組織学的に腫瘍細胞の索状増殖や多数の角質囊腫、硝子化した膠原線維をみる。基底細胞癌との鑑別が困難なものもある。

4. 毛芽腫 trichoblastoma

好発部位は顔面や頭部で、半球状に隆起した結節ないしは皮下結節。毛包の毛芽細胞 (follicular germinative cell) に類似した腫瘍細胞と、線維性間質で構成されている。脂腺母斑に伴って生じる場合もある。基底細胞癌との鑑別が困難なものもある。毛包上皮腫との異同が論議されている。

5. 毛母腫 pilomatricoma

同義語：石灰化上皮腫 (calcifying epithelioma)、毛根腫 (pilomatricoma)

症状

幼小児の顔面、頸部、上肢に好発し、通常単発性の直径 1 ~ 2 cm までの硬い皮内および皮下腫瘍。表面は常色ないし青白く透見され、凹凸に富み骨様硬に触知する (図 21.8)。ときに水疱様外観を呈する。自覚症状はないが、ときに軽度の圧痛を伴う。二次感染を生じて炎症性類表皮囊腫 (p.417) と区別がつかなくなることがある。筋緊張性ジストロフィー症で多発することがある。ごくまれに癌化することがあり、毛母癌 (pilomatric carcinoma) という。

病因

毛隆起 (hair bulge) から発生する奇形腫の一種。β カテニ